

相模女子大学日本学国際研究所主催 紀伊國屋書店アカデミック・ラウンジシリーズ  
「相模女子大学日本学国際研究所と学ぶ・知る・考える」講演概要

Vol.12	日程・開催時間	2026年7月19日（日曜日） 14:00～15:30
	タイトル	新作歌舞伎『もののけ姫』からひも解く令和の歌舞伎
	講師	戸部 和久 氏 松竹株式会社 歌舞伎演劇製作部芸文室
	内容	2026年7月、8月に新橋演舞場で上演される新作歌舞伎『もののけ姫』を中心に、これまで数多くの新作歌舞伎の脚本・演出を手掛けてきた戸部和久氏が、新作歌舞伎が誕生するまでの秘話を語ります。古典歌舞伎の趣を大切にしながらも人気アニメや漫画とコラボレーションした新作歌舞伎を通して、「令和の観客の心をつかむ歌舞伎」に必要な工夫や、これからの歌舞伎に求められるものなど、「創作」という視点から歌舞伎の魅力をお伝えします。

Vol.13	日程・開催時間	2026年9月26日（土曜日） 14:00～15:30
	タイトル	『おかしな日本』と『おかしくない日本』 —— 1980年版と2024年版SHŌGUN のなかの日本像
	講師	中林 正身 相模女子大学学芸学部国際コミュニケーション学科教授 相模女子大学日本学国際研究所研究員
	内容	1975年に出版されたJames Clavellの小説SHŌGUNと、これを基にして制作された1980年版と2024年版のドラマを比較し、戦国時代の日本が外からの眼差しを通してどのように描かれているのかを考えます。このために、物語の要所となる場面での人物描写、儀礼や生活文化が言葉と映像でどう表現されているのかに目を向けつつ、原作の英語の言い回しも手がかりにしなが、同じモチーフの描出が時代や制作環境の違いによってどのように変化しているかを、いくつかの場面を取り上げて読み、観て、解いていきたいと思ひます。あわせて、異文化が描出されるときに生じるズレやオーセンシティをめぐむ問題を、講演者自身の視点から批評的に検討します。ふたつのドラマ版SHŌGUNにおいて、どのような描かれ方が「おかしくない」と腑に落ちて、なにが「おかしい」と違和感を覚えるのか——そのポイントを示しながら、皆さんとも一緒に考えることができたらうれしいです。

vol.14	日程・開催時間	2026年12月20日（日曜日） 14:00～15:30
	タイトル	脚本家と俳優が語る日本の婚活最前線 ～なぜ今、若者に結婚相談所が支持されているのか～
	講師	小林 雄次 氏 脚本家・小説家 練苧 弘晃 氏 婚活アドバイザー・俳優
	内容	「結婚したい」という切実な願ひを抱える若者たちが今、結婚相談所という選択肢に注目しています。最大手IBJグループの会員数は10万人を突破し、婚活市場は静かな熱を帯びています。本講演では、自身の婚活体験を通してWEBコミック『バツイチ コンシェルジュ』の原作を手掛けた脚本家の小林雄次氏と、同じく婚活体験から結婚相談所「M-BASE」を設立した俳優の練苧弘晃氏による対談をお届けします。『ウルトラマンオーブ』の脚本家と出演者という縁を持つ二人が、リアルな実体験を交えながら、なぜ今、若者に「結婚相談所」が支持されているのか、日本の婚活の最前線に迫ります。